

# 日本アイソトープ協会の学術活動

平成24年度

発行 公益社団法人 日本アイソトープ協会

## 目 次

1. 会員	1
1.1 会員数の推移（会員種別、年度別）	1
1.2 所属部会別会員数（団体、賛助、特別、学生会員含む）	1
1.3 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）	1
2. 部会・委員会	2
2.1 理工学部会	2
2.1.1 概要	2
2.1.2 第24期理工学部会	2
2.2 ライフサイエンス部会	5
2.2.1 概要	5
2.2.2 第24期ライフサイエンス部会	5
2.3 医学・薬学部会	7
2.3.1 概要	7
2.3.2 第24期医学・薬学部会	7
2.4 放射線安全取扱部会	11
2.4.1 概要	11
2.4.2 第27期放射線安全取扱部会	11
2.5 その他の委員会	14
2.6 講演会・見学会等	16
2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会	16
2.6.2 放射線安全取扱部会	18
2.6.3 NMCC共同利用委員会	20
3. 第49回アイソトープ・放射線研究発表会	20
4. 講習会	21
4.1 文部科学省・厚生労働省登録講習	21
4.1.1 第1種放射線取扱主任者講習	21
4.1.2 第3種放射線取扱主任者講習	21
4.1.3 放射線取扱主任者定期講習	22
4.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習	23
4.2 その他講習会	23
4.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会	23
4.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会	23
4.2.3 密封線源安全取扱講習会	23
4.2.4 第1種主任者育成講習会	24
4.2.5 第2種主任者育成講習会	24
4.2.6 $\gamma$ 線核種分析のための講習会	24
5. 図書等の発行	25
5.1 機関誌	25
5.1.1 Isotope News	25
5.1.2 RADIOISOTOPES	25

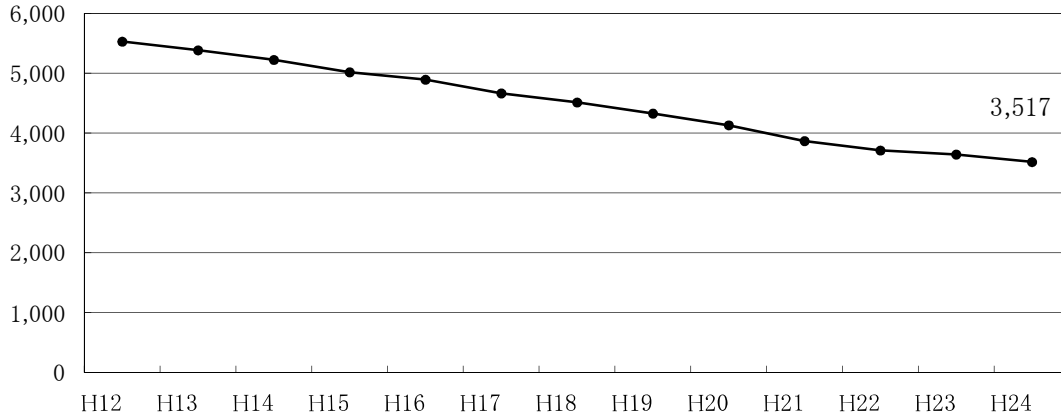
5.2	出版物等	26
5.3	東日本大震災対応	26
6.	共同利用	26
6.1	仁科記念サイクロトロンセンター共同利用	26
7.	普及・啓発	27
7.1	第16回(2012年)RADIOISOTOPES誌論文奨励賞	27
7.2	第49回アイソトープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞	27
7.3	第22回滝沢研究所施設公開	27
7.4	武見記念館	27
7.5	第53回「科学技術週間」施設公開	27
7.6	公開講座	27
8.	図書室の活動	28
8.1	新規収蔵図書	28
8.2	収蔵定期刊行物	30
資料	部会活動の経過及び成果公表資料	31
1.	理工学部会	31
2.	ライフサイエンス部会	36
3.	医学・薬学部会	39
4.	放射線安全取扱部会	47

# 1. 会員

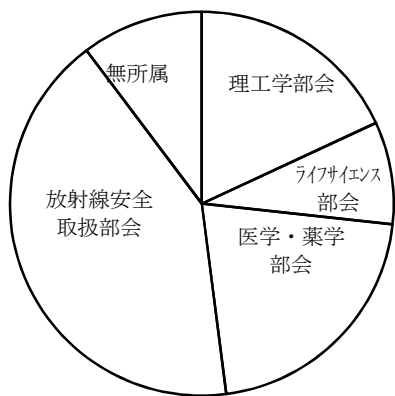
## 1.1. 会員数の推移（会員種別、年度別）（各年度3月末日現在） \*学生会員：平成24年度から新設

区分	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
個人正会員	5,216	4,860	4,685	4,441	4,307	4,100	3,914	3,733	3,526	3,270	3,103	3,017	2,864
団体正会員	265	270	259	249	242	234	239	240	240	229	225	226	220
特別会員	-	206	233	285	304	293	325	319	331	336	352	370	400
賛助会員	47	47	46	41	39	37	34	34	34	32	30	30	28
学生会員*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
計	5,528	5,383	5,223	5,016	4,892	4,664	4,512	4,326	4,131	3,867	3,710	3,643	3,517

会員数の推移(団体、賛助、特別、学生会員含む)



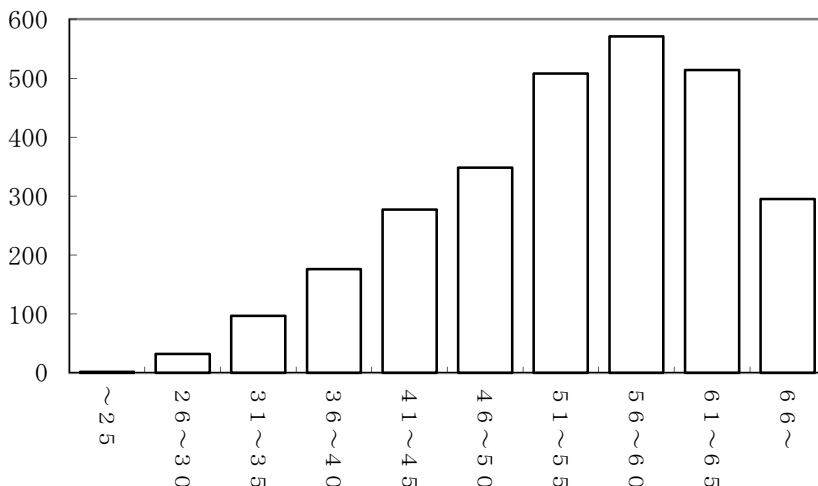
## 1.2. 所属部会別会員数（団体、賛助、特別、学生会員含む）（平成25年3月末日現在）



理工学部会	1,002
ライフサイエンス部会	479
医学・薬学部会	1,177
放射線安全取扱部会	2,315
無所属	569
延 計	5,542

(注) 会員は複数の部会に所属できる

## 1.3. 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）（平成25年3月末日現在）



## 2. 部会・委員会\*

### 2.1 理工学部会

#### 2.1.1 概要

理工学部会ではアイソトープの理工学分野への利用に関する調査研究や部会員相互の研究連絡ならびに技術の向上に資するため、講演会、勉強会、見学会などを行うとともに、必要に応じ専門委員会を設けて、所要の調査・研究活動を実施しています。

#### 2.1.2 第24期理工学部会（任期：平成24年6月～平成26年3月）の構成

<b>常任委員会</b> 理工学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	井口 哲夫	名古屋大学大学院工学研究科
副部会長	今泉 洋	新潟大学自然科学系（工学部）
常任委員	藤浪 眞紀	千葉大学大学院工学研究科
	青山 道夫	気象庁気象研究所
	大石 晃嗣	清水建設(株)技術研究所
	神野 郁夫	京都大学大学院工学研究科
	鬼柳 善明	北海道大学大学院工学研究院
	小嶋 拓治	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	後藤 彰	(独)放射線医学総合研究所
	小林 久夫	立教大学名誉教授
	酒井 宏隆	(株)東芝 府中事業所
	柴田 徳思	(株)千代田テクノ
	白川 芳幸	(独)放射線医学総合研究所
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科
	田川 精一	大阪大学産業科学研究所
	檜野 良穂	(独)産業技術総合研究所
	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)
	山本 匡吾	TPR(株)
鷲尾 方一	早稲田大学理工学術院総合研究所理工学研究所	

<b>放射線防護機器専門委員会</b> 放射線施設における放射線防護用設備・機器の適切な使用に資するため、「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集し利用者の便に供する。		
委員長	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)
委員	草尾 豊	(株)千代田テクノ
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	白川 芳幸	(独)放射線医学総合研究所
	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
	檜野 良穂	(独)産業技術総合研究所
	武藤 利雄	(地独)東京都立産業技術研究センター

\*) 所属は平成25年3月現在

中性子応用専門委員会

発展の著しい中性子関連のいくつかの先端技術の研究について、従来の中性子イメージングに加え、新たにいくつかのテーマを加え研究調査を行う。

委員長	鬼柳 善明	北海道大学大学院工学研究院
委員	飯倉 寛*	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	岩瀬 謙二	茨城大学フロンティア応用原子科学研究センター
	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
	甲斐 哲也	(独)日本原子力研究開発機構J-PARCセンター
	兼松 学	東京理科大学理工学部
	川端 祐司	京都大学原子炉実験所
	篠原 武尚	(独)日本原子力研究開発機構J-PARCセンター
	竹中 信幸	神戸大学大学院工学研究科
	広田 克也	名古屋大学大学院理学研究科
	松嶋 卯月	岩手大学農学部
	持木 幸一	東京都市大学工学部
	安田 良**	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門

\* 平成24年10月より \*\* 平成24年9月まで

放射能測定・除染技術等に関する調査検討専門委員会

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関連して、放射能測定等の作業に携わる実務者等を対象に、測定技術や除染技術等の情報収集、比較検討を行い、現状を踏まえた情報の提供等を通じ、知識・技術の普及啓発に取り組む。

委員長	小嶋 拓治	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
委員	大石 晃嗣	清水建設(株)技術研究所
	白川 芳幸	(独)放射線医学総合研究所
	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)
	柚木 彰*	(独)産業技術総合研究所

\* 平成25年2月より

放射能測定・除染技術等に関する調査検討専門委員会

放射線に関する基礎的知識の普及ワーキンググループ\*

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関連して、放射線等に関する教育を受けていない一般の方を対象とし、主に放射性セシウムに重点を置いた、放射線・放射能に関する基礎的な知識の普及に係るテキストの作成を行う。

主査 委員	白川 芳幸	(独)放射線医学総合研究所
	飯本 武志	東京大学環境安全本部
	大石 晃嗣	清水建設(株)技術研究所
	木下 哲一	清水建設(株)技術研究所
	小嶋 拓治	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	田中 守	日立アロカメディカル(株)
	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)

\* 平成25年2月より

放射能測定・除染技術等に関する調査検討専門委員会

食品等の放射能測定のための分析法の規格化ワーキンググループ \*

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故後の食品中及び環境試料中の放射性セシウムの測定に関する状況を受け、シンチレーションスペクトロメータ（主にNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータ）を用いた測定法に関して、標準試料及び標準測定手順の規格化を行う。

主査	松原 昌平	日立アロカメディカル(株)
委員	海野 泰裕	(独)産業技術総合研究所
	川口 常昭	日立アロカメディカル(株)
	佐藤 泰	(独)産業技術総合研究所
	柚木 彰	(独)産業技術総合研究所
	山田 崇裕	(公社)日本アイソトープ協会

\* 平成25年2月より

## 2.2 ライフサイエンス部会

### 2.2.1 概要

ライフサイエンス部会では、アイソトープのライフサイエンス分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを各専門委員会を中心に実施しています。

### 2.2.2 第24期ライフサイエンス部会（任期：平成24年6月～平成26年3月）の構成

常任委員会		
ライフサイエンス分野におけるR I・放射線の利用推進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
副部会長	小島 周二	東京理科大学薬学部
	林 徹	聖徳大学人間栄養学部
常任委員	東 順一	大阪大学大学院工学研究科
	井尻 憲一	東京大学アイソトープ総合センター
	伊藤 伸彦	北里大学獣医学部
	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科
	大森 正之	中央大学理工学部
	白岩 善博	筑波大学生命環境系
	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	濱 健夫	筑波大学生命環境系
	山川 武夫	九州大学大学院農学研究院
	吉田 聡	(独)放射線医学総合研究所
	米山 忠克	(独)農業・食品産業技術総合研究機構

企画専門委員会		
ライフサイエンス部会の活動全般にわたる企画・立案、調整・運営について検討し、常任委員会に意見具申する。		
委員長	白岩 善博	筑波大学生命環境系
委員	笠井 清美	(独)放射線医学総合研究所
	朽津 和幸	東京理科大学理工学部
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	佐々木 徹	(地独)東京都健康長寿医療センター研究所
	竹島 一仁	名古屋大学アイソトープ総合センター
	田中 淳	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	塚田 祥文	(公財)環境科学技術研究所／ 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
	丹生谷 博	東京農工大学遺伝子実験施設
	古川 純	筑波大学アイソトープ総合センター／生命環境系
	星野 洪郎	群馬大学名誉教授
	柳沢 啓	(独)放射線医学総合研究所



安定同位元素専門委員会

安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。

委員長	濱 健夫	筑波大学生命環境系
委員	足立 恭子	新日鉄住金化学(株)
	折笠 敬	大陽日酸(株)
	風早 康平	(独)産業技術総合研究所
	梶原 康宏	横浜薬科大学
	佐仲 雅樹	城西国際大学薬学部
	高取 和彦	明治薬科大学薬学部
	田中 福代	(独)農業・食品産業技術総合研究機構
	米山 忠克	(独)農業・食品産業技術総合研究機構

薬学・薬理学研究専門委員会

薬学・薬理学研究分野におけるアイソトープ利用の促進を図るための諸活動を行う。

委員長	小島 周二	東京理科大学薬学部
委員	加藤 真介	横浜薬科大学
	金子 実	東京理科大学環境安全センター
	佐々木 徹	(地独)東京都健康長寿医療センター研究所
	杉山 英男	帝京平成大学健康メディカル学部
	平田 幸也	日本たばこ産業(株)医薬総合研究所
	堀江 正信	東京薬科大学薬学部

## 2.3 医学・薬学部会

### 2.3.1 概要

医学・薬学部会では、アイソトープの医学、薬学分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを専門委員会を中心に実施しています。

### 2.3.2 第24期医学・薬学部会（任期：平成24年6月～平成26年3月）の構成

<b>常任委員会</b> 医学・薬学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所
副部会長	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
常任委員	油野 民雄	旭川医科大学
	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	伊藤 健吾	(独)国立長寿医療研究センター
	井上 登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	遠藤 啓吾	京都医療科学大学
	大野 和子	京都医療科学大学医療科学部
	菅野 巖	(独)放射線医学総合研究所
	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
	桑原 康雄	福岡大学病院
	小須田 茂	防衛医科大学校
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
	福田 寛	東北大学加齢医学研究所
	細野 眞	近畿大学高度先端総合医療センター
松田 博史	(独)国立精神・神経医療研究センター	

<b>企画専門委員会</b> 部会活動の見直しと活性化を図るため企画、立案、調整を行う。		
委員長	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	尾川 浩一	法政大学理工学部
	織内 昇	J A長野厚生連 佐久総合病院
	小泉 満	がん研有明病院
	棚田 修二	国際医療福祉大学三田病院
	中嶋 憲一	金沢大学医薬保健研究域医学系
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
	藤井 博史	(独)国立がん研究センター東病院

核医学イメージング・検査技術専門委員会

①核医学イメージング技術水準の向上に資するため、イメージングの規格化に関する検討を行う。

②核医学検査技術の向上と核医学機器の安全管理に関する調査・検討を行う。

委員長	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
副委員長	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
委員	井上 優介	北里大学医学部
	大西 英雄	県立広島大学大学院総合学術研究科
	小野口 昌久	金沢大学医薬保健研究域
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	菊池 敬	北里大学病院
	木田 哲生	滋賀医科大学医学部附属病院
	篠原 広行	首都大学東京名誉教授
	丸野 廣大	虎の門病院

放射性医薬品専門委員会

放射性医薬品の利用促進と施設内取扱いに関する検討を行う。

委員長	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	井上 修	大阪大学大学院医学系研究科
	小野口 昌久	金沢大学医薬保健研究域保健学系
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	川井 恵一	金沢大学医薬保健研究域保健学系
	窪田 和雄	(独) 国立国際医療研究センター病院
	藤林 靖久	(独) 放射線医学総合研究所
	間賀田 泰寛	浜松医科大学メディカルフォトンクス研究センター
	安原 真人	東京医科歯科大学医学部附属病院

放射性医薬品安全性専門委員会

放射性医薬品の安全性確保に資するため、放射性医薬品副作用事例等の調査・検討を行う。

委員長	松田 博史	(独) 国立精神・神経医療研究センター
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	岡沢 秀彦	福井大学高エネルギー医学研究センター
	水村 直	東邦大学医療センター大森病院
	横山 邦彦	公立松任石川中央病院
	吉村 真奈	東京医科大学

ポジトロン核医学利用専門委員会

ポジトロン放出核種による放射性薬剤の成熟技術・成熟薬剤の認定と指針の作成を行い、PET検査の臨床利用に関する検討を行う。

委員長	米倉 義晴	(独) 放射線医学総合研究所
副委員長	伊藤 健吾	(独) 国立長寿医療研究センター
委員	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	井上 登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	織内 昇	J A 長野厚生連 佐久総合病院
	千田 道雄	先端医療センター
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	畑澤 順	大阪大学大学院医学系研究科
	福田 寛	東北大学加齢医学研究所
	藤林 靖久	(独) 放射線医学総合研究所
	間賀田 泰寛	浜松医科大学メディカルフォトンクス研究センター

医療放射線管理専門委員会		
核医学検査等における放射線管理に関する検討を行う。		
委員長	大野 和子	京都医療科学大学医療科学部
副委員長	菊地 透	自治医科大学R Iセンター
委員	唐澤 克之	がん・感染症センター都立駒込病院
	中村 豊	国立病院機構相模原病院臨床研究センター
	松田 博史	(独)国立精神・神経医療研究センター
	山口 一郎	国立保健医療科学院

放射線治療専門委員会		
密封線源等による放射線治療に関する検討を行う。		
委員長	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
委員	伊丹 純	(独)国立がん研究センター中央病院
	茂松 直之	慶応義塾大学医学部
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	土器屋 卓志	埼玉医科大学客員教授
	中野 隆史	群馬大学医学部
	萬 篤憲	国立病院機構東京医療センター

放射線治療専門委員会 前立腺癌永久挿入治療推進ワーキンググループ		
前立腺癌永久挿入治療法における安全取扱いと普及のための諸活動を行う。		
主査	萬 篤憲	国立病院機構東京医療センター
	青木 学	東京慈恵会医科大学医学部
委員	伊丹 純	(独)国立がん研究センター中央病院
	穎川 晋	東京慈恵会医科大学医学部
	斉藤 史郎	国立病院機構東京医療センター
	佐藤 威文	北里大学医学部
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	土器屋 卓志	埼玉医科大学客員教授
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	橋本 光康	国際医療福祉大学保健医療学部
	山中 英壽	群馬大学名誉教授

全国核医学診療実態調査専門委員会*		
5年毎に実施している「全国核医学診療実態調査」の第7回調査を平成24年6月に行い、取りまとめにあたる。		
委員長	桑原 康雄	福岡大学病院
副委員長	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
委員	井上 健太郎	東北大学加齢医学研究所
	坂本 攝	獨協医科大学病院
	下瀬川 恵久	大阪大学大学院医学研究科
	竹岡 啓子	大阪大学医学部附属病院
	竹田 芳弘	岡山大学大学院保健学研究科
	外山 宏	藤田保健衛生大学医学部
	新尾 泰男	帝京大学ちば総合医療センター
	西山 佳宏	香川大学医学部
	吉永 恵一郎	北海道大学大学院医学研究科
	吉村 真奈	東京医科大学

\* 平成25年9月まで

### アイソトープ内用療法専門委員会

アイソトープの内用療法を効果的に推進するため、医療安全の確保を図る適正使用のガイドライン等の作成に資する検討を行う。

委員長	遠藤 啓吾	京都医療科学大学
委員	油野 民雄	旭川医科大学
	江口 研二	帝京大学医学部
	岡本 真一郎	慶應義塾大学医学部
	小椋 美知則	名古屋第二赤十字病院
	絹谷 清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系
	斉藤 史郎	国立病院機構東京医療センター
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	飛内 賢正	(独)国立がん研究センター中央病院
	成田 浩人	東京慈恵会医科大学附属病院
	西山 佳宏	香川大学医学部
	細野 眞	近畿大学高度先端総合医療センター
	山口 一郎	国立保健医療科学院
	池淵 秀治	(公社)日本アイソトープ協会
	中村 吉秀	(公社)日本アイソトープ協会

## 2.4 放射線安全取扱部会

### 2.4.1 概要

放射線安全取扱部会では、アイソトープ・放射線に関する公共の安全・安心を確保するため、アイソトープ・放射線の安全取扱、管理について技術の向上と知識の普及・啓発を図ること、また、アイソトープ・放射線に関する国民の理解と放射線を取り扱う専門家への信頼を深めるため、放射線取扱主任者をはじめ放射線障害の防止に関する専門知識を有する者の育成と地位向上に努めるための諸活動を実施しています。

なお、当協会の公益法人移行に伴い、放射線取扱主任者の地位向上のみならず、放射線障害の防止と公共の安全・安心の確保に寄与する活動を行う部会の目的に合わせて、平成24年4月に、部会名を放射線取扱主任者部会から放射線安全取扱部会へ変更しました。

### 2.4.2 第27期放射線安全取扱部会（任期：平成24年6月～平成26年3月）の構成

本部運営委員会		
部会の目的を達成するため、その運営を円滑に推進するとともに支部間の連絡調整を行う。		
部会長	宮越 順二	京都大学生存圏研究所
副部会長	松田 尚樹	長崎大学先端生命科学研究支援センター
	上養 義朋	(独)理化学研究所仁科加速器研究センター
本部運営委員	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科
	大槻 勤	東北大学電子光理学研究センター
	鈴木 崇彦	東京大学大学院医学系研究科
	柴 和弘	金沢大学学際科学実験センター
	大河原賢一	製薬放射線コンファレンス
	中島 覚	広島大学自然科学研究支援開発センター
	百島 則幸	九州大学アイソトープ総合センター
	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
	唐沢 克之	がん・感染症センター都立駒込病院

#### 【支部組織】

各支部は、放射線安全取扱部会細則の目的に則り、統括する地域の部会員を対象に支部活動を行う。

北海道支部委員会		
支部長	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科
委員	伊藤 慎二	北海道薬科大学薬学部
	野矢 洋一	北海道大学アイソトープ総合センター
	早川 均	北海道電力(株)泊発電所
	安原 優子	北海道大学大学院農学研究院

東北支部委員会		
支部長	大槻 勤	東北大学電子光理学研究センター
委員	乾 恵美子	山形大学理学部
	河津 賢澄*	福島大学理工学部
	坂根 正一	日立アロカメディカル(株)
	佐藤 和則	東北大学加齢医学研究所
	野田 喜美雄	日本原燃(株)

\* 平成24年10月から

関東支部委員会

支 部 長	鈴木 崇彦	東京大学大学院医学系研究科
委 員	飯塚 裕幸	埼玉医科大学中央研究施設
	五十嵐 敏美	東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター
	江田 正明	ゼリア新薬工業(株)中央研究所
	大登 邦充	(株)千代田テクノ
	小柳 充	新潟大学農学部
	片岡 賢英	慶應義塾大学医学部
	金子 実	東京理科大学環境安全センター
	佐藤 斉	茨城県立医療大学保健医療学部
	高橋 克彦	獨協医科大学RIセンター
	松本 義久	東京工業大学原子炉工学研究所
	梁田 哲夫	日立アロカメディカル(株)

中部支部委員会

支 部 長	柴 和弘	金沢大学学際科学実験センター
委 員	加藤 浩	三重大学生命科学研究支援センター
	小島 久	名古屋大学アイソトープ総合センター
	小山 修司	名古屋大学医学部保健学科
	日比 章五	(株)豊田中央研究所
	山口 哲郎	(株)千代田テクノ
	横山 須美	藤田保健衛生大学
	和田 真由美	福井大学ライフサイエンス支援センター

近畿支部委員会

支 部 長	大河原 賢一	製薬放射線カンファレンス
委 員	飯田 敏行	大阪大学大学院工学研究科
	稲垣 昌代	近畿大学原子力研究所
	大熊 浩志	日本メジフィジックス(株)
	尾崎 誠	京都工芸繊維大学高度技術支援センター
	佐々木 將博	(公財)先端医療振興財団先端医療センター
	鈴木 健二	(株)日本環境調査研究所
	谷 康輔	ポニー工業(株)
	松本 敦	(株)コーガアイソトープ
	矢鋪 祐司	日本たばこ産業(株)医薬総合研究所

中国・四国支部委員会

支 部 長	中島 覚	広島大学自然科学研究支援開発センター
委 員	秋山 浩一	愛媛大学総合科学研究支援センター
	北 実	鳥取大学生命機能研究支援センター
	坂口 修一	山口大学総合科学実験センター
	中西 徹	就実大学大学院医療薬学研究科
	三好 弘一*	徳島大学アイソトープ総合センター

\* 平成24年10月から

九州支部委員会

支 部 長	百島 則幸	九州大学アイソトープ総合センター
委 員	芦川 信雄	(一財)九州環境管理協会
	馬田 敏幸	産業医科大学アイソトープ研究センター
	岡島 敏浩	佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター
	萱野 信二	(株)千代田テクノ
	杉原 真司*	九州大学アイソトープ総合センター

\* 平成24年10月から

【本部組織】

企画専門委員会

部会の根幹を支え部会の事業および組織全般に関して、企画立案し、審議・推進する。

委員長	松田 尚樹	長崎大学先導生命科学研究支援センター
委員	飯本 武志	東京大学環境安全本部
	大倉 一枝	北海道医療大学薬学部
	小野 俊朗	岡山大学自然生命科学研究支援センター
	加藤 真介	横浜薬科大学薬学部
	島崎 達也	熊本大学生命資源研究・支援センター
	高橋 郁子	名城大学薬学部
	角山 雄一	京都大学環境安全保健機構放射性同位元素総合センター分館
	山下 順助	秋田大学バイオサイエンス教育・研究センター

広報専門委員会

部会員相互のコミュニケーションと外部への広報活動を行い、部会員の資質向上と部会の地位向上に寄与する。

委員長	上菘 義朋	(独)理化学研究所仁科加速器研究センター
委員	池本 祐志	日本農薬(株)
	小野 孝二	大分県立看護科学大学
	川辺 睦	岡山大学大学院保健学研究科
	鈴木 朗史	(独)日本原子力研究開発機構/長瀬ランダウア(株)
	桧垣 正吾	東京大学アイソトープ総合センター
	宮本 昌明	神戸大学研究基盤センター
	吉田 浩子	東北大学大学院薬学研究科

法令検討専門委員会

放射線取扱主任者の立場から、法令に係る検討を行い、意見具申案を作成する。

委員長	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
委員	角田 昌彦	(独)日本原子力研究開発機構原子力科学研究所
	西沢 博志	三菱電機(株)先端技術総合研究所
	原 正幸	東京医科歯科大学医歯学研究支援センター
	矢野 和秀	(株)千代田テクノル
	渡辺 雄三	順天堂大学大学院医学研究科



## 2.5 その他の委員会

Isotope News編集委員会 Isotope Newsを編集、刊行する。		
委員長	小島 周二	東京理科大学薬学部
委員	岡田 淳一*	成田赤十字病院
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科
	桧垣 正吾**	東京大学アイソトープ総合センター
	福喜多 博義	国際医療福祉大学保健医療学部
	丸野 廣大**	虎ノ門病院
	古田 悦子*	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
	村松 康行	学習院大学理学部
	王 冰	(独)放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター

\*平成24年12月まで \*\*平成25年1月から

RADIOISOTOPES編集委員会 (任期：平成25年1月～平成26年12月) RADIOISOTOPESを編集、刊行する。		
委員長	下 道國	藤田保健衛生大学客員教授
副委員長	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
委員	今泉 洋	新潟大学自然科学系 (工学部)
	久保 謙哉	国際基督教大学教養学部
	小須田 茂	防衛医科大学校放射線医学講座
	小林 慶規	(独)産業技術総合研究所
	柴田 徳思	(株)千代田テクノロ
	杉浦 紳之	(独)放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科
	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	藤井 博史	国立がん研究センター東病院

ICRP勧告翻訳検討委員会 (任期：平成24年6月1日～平成26年3月) 国際放射線防護委員会 (ICRP) 刊行物の日本語版の編集企画の検討を行う。下訳業者及び翻訳者の選定を行い、翻訳検討委員会による校閲とICRP国内メンバー等による監修を経て最終稿を決定し、ICRP刊行物「日本語版」を発行する。		
委員長	丹羽 太貫	京都大学名誉教授、ICRP主委員会
副委員長	今村 恵子	聖マリアンナ医科大学放射線医学講座
委員	神田 玲子	(独)放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター
	佐々木康人*	医療法人日高病院 腫瘍センター
	鈴木 元*	国際医療福祉大学クリニック
	藤元 憲三	元 (独)放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター
	吉澤 道夫	(独)日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所

\* 平成24年12月から

NMCC共同利用委員会（任期：平成24年10月～平成26年9月）

NMCCの全国共同利用を円滑に推進する。

委員長	小川 彰	岩手医科大学
委員	石井 慶造	東北大学大学院工学研究科
	石川 和克	岩手県立大学看護学部
	伊藤 伸彦	北里大学
	岩田 錬	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
	江原 茂	岩手医科大学医学部
	小笠原 邦昭	岩手医科大学医学部
	織原 彦之丞	東北大学名誉教授
	澤本 潤	岩手県立大学ソフトウェア情報学部
	小豆嶋 正典	岩手医科大学歯学部
	寺山 靖夫	岩手医科大学医学部
	藤村 朗	岩手医科大学歯学部
	久保 敦司	(公社)日本アイソトープ協会

## 2.6 講演会・見学会等

### 2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
5・12	国際ファッションセンタービル	講習会 第13回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会 1 放射線安全管理 (1)内用療法用放射性医薬品の安全管理 2 放射線安全管理 (2)法令、届出事項及び退出基準について 3 放射線安全管理 (3)放射線測定と放射性廃棄物の安全管理 4 臨床応用	医
5・26	日本アイソトープ協会	講習会 第21回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会 1 臨床応用 2 放射線安全管理－法令、届出事項及び退出基準について 3 読影・判定について 4 放射線安全管理－放射線測定及び放射性廃棄物の安全管理について 5 放射線安全管理－内用療法用放射性医薬品の安全管理 6 教育訓練－管理区域の入退室について 7 実習： <sup>90</sup> Y-イブリツモマブ チウキセタンの標識調製法、標識率の確認、放射性廃棄物の処理方法等について	医
6・1	Spring-8	見学会 施設見学 Spring-8 ((独)理化学研究所播磨研究所) ・Spring-8 ・XFEL施設 SACLA など 講義 田中 均氏 ((独)理化学研究所)	理
7・10	東京大学 弥生講堂	インフォーマルミーティング (理工学部会連絡会) 1 部会活動報告 (1)理工学部会の活動について (2)専門委員会報告 ・放射線防護機器専門委員会 ・超低レベル放射能測定専門委員会 ・中性子応用専門委員会 ・放射能測定・除染技術等に関する調査検討専門委員会 2 講演 「日本における放射線化学の歴史とその一例について」 田畑 米穂氏 (日本アイソトープ協会)	理
7・11 ～7・12	東京理科大学 森戸記念館 (東京都新宿区神楽坂)	平成24年度エンライトニングセミナー 特別講義 X線分析による文化財分析から科学捜査まで 教育講義 1 携行用放射線線量計の開発 2 放射線計測の原理と放射能計測 3 放射線の細胞に対する作用 4 放射線の個体に対する影響 企業紹介 研究室紹介 若手口頭発表	理 ラ

月・日	会場、場所	演題、見学施設等	主催
10・26	もんじゅ、関西電子ビーム(株)	見学会 施設見学 もんじゅ (独)日本原子力研究開発機構 高速増殖炉研究開発センター) ・ナトリウム取扱研修施設 ・もんじゅサイト内展望台 など 関西電子ビーム(株) ・電子線照射施設 など	理
10・27	日本アイソトープ協会	講習会 第22回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会  内容は第21回(5・26開催)に同じ	医
12・1	飯田橋レインボービル	講習会 第14回 有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89治療安全取扱講習会  内容は第13回(5・12開催)に同じ	医
2・9	航空会館	講習会 第15回 高線量率ラルス医療安全取扱講習会 1 小線源治療(特にHDR)の安全管理と取扱 ー使用前検査・事故事例から学ぶー 2 大阪大学における事故防止の方策 3 子宮頸癌に対する3D Image-guided brachytherapy (IGBT) 4 ラルス治療の看護	医
2・9	航空会館	講習会 第16回 ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取扱講習会 1 シード療法総論 2 シード治療の看護～安全管理における看護師教育～ 3 被ばく測定と線源管理について 4 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療 ー臨床における安全管理の実際  * 高線量率ラルス医療安全取扱講習会・ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取扱講習会 合同講義(医療安全 ～放射線との連携～)を実施	医
2・23	日本アイソトープ協会	講習会 第23回 イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会  内容は第21回(5・26開催)に同じ	医
3・8	(独)国立科学博物館 筑波研究施設	講演・見学会 講演「絶滅した哺乳類の古生態復元における安定同位元素分析の応用」 甲能 直樹氏((独)国立科学博物館) 施設・設備見学 (独)国立科学博物館 筑波研究施設 ・質量分析計、誘導結合プラズマ質量分析装置など	ラ

## 2.6.2 放射線安全取扱部会

### (1) 平成24年度放射線安全取扱部会年次大会（第53回放射線管理研修会）

月・日	会場、場所	演題等
11・8 ～9	松山市総合コ ミュニティセン ター	部会総会 部会の活動報告・活動計画 特別講演Ⅰ（文部科学省） 放射性同位元素等の規制に係る最近の動向－法令改正など 特別講演Ⅱ “念ずれば花ひらく”の詩人坂村真民の人生と詩の魅力について 特別講演Ⅲ 放射線教育の必要性に関して シンポジウムⅠ 福島第一原子力発電所事故からの復興 シンポジウムⅡ 原発事故と環境放射能計測 シンポジウムⅢ 一般の方への放射線教育 ポスター発表 33題

### (2) 研修会、勉強会及び法定の教育訓練講習会等

#### ○北海道支部

月・日	会場、場所	演題等
4・20	北海道大学百年 記念会館大会議 室	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
6・9	北海道大学工学 部正面玄関ホー ル及びA棟1-17教 室	平成23年度第1回原子力オープンスクール（主催：日本原子力学会北海道支部。北海道電力、WEN、北海道大学大学院工学研究科と共催）
7・13	北海道大学工学 部A-17教室	平成24年度原子力オープンスクール（主催：日本原子力学会北海道支部。北海道電力、WEN、北海道大学大学院工学研究科と共催）
10・28	北海道電力苫東 厚真発電所	見学会・支部交流会
2・1	北海道大学学術 交流会館	北海道安全管理研修会・アイソトープ利用研究会（主催：北海道大学アイソトープ総合センター。共催：北海道支部。後援：日本放射線安全管理学会）

#### ○東北支部

月・日	会場、場所	演題等
5・14	仙台商工会議所	教育訓練講習会（新規教育・再教育）（東北放射線科学センターと共催）
3・15	東北大学金属材 料研究所会議室	放射線管理実務セミナー

#### ○関東支部

月・日	会場、場所	演題等
4・18	日本青年館	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅰ（新規教育）
5・16	家の光会館	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅱ（新規教育）
5・21	家の光会館	教育訓練講習会－密封線源・認証機器の安全取扱（新規教育・再教育）
5・24	国際ファッショ ンセンタービル	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅲ（再教育）
10・26	家の光会館	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅳ（新規教育）
10・18	日本アイソト ープ協会第2会議室	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅴ（再教育）

○中部支部

月・日	会場、場所	演題等
5・11	名古屋商工会議 所	第24回教育訓練講習会（新規教育・再教育）（中部原子力懇談会と共催）
12・7	中部電力（株） 浜岡原子力発電 所と防波壁	見学会・支部交流会
2・24	東桜会館	研修会「福島第一原発事故による様々な影響」・支部交流会

○近畿支部

月・日	会場、場所	演題等
5・25	新梅田研修セン ター	教育訓練講習会Ⅰ（新規教育・再教育）
10・12	京都大学放射性 同位元素総合セ ンター	教育訓練講習会Ⅱ（新規教育・再教育）
2・7	コーガアイソ トープ	見学会・交流会

○中国・四国支部

月・日	会場、場所	演題等
5・18	広島大学東千田 キャンパスA棟 501号室	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
5・19	就実大学図書館 AVホール	放射線セミナー「新学習指導要領に基づく放射線の学習指導を考える」

○九州支部

月・日	会場、場所	演題等
5・9	福岡リーセント ホテル	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
10・12	福岡ガーデンパ レス	第19回支部主任者研修会・交流会

(3) 講師派遣

- ・45事業所等からの依頼を受けて法定教育訓練の講師を派遣した。
- ・大阪府との「放射性物質関係災害時等に関する協定」に基づき3事業所へ講師を派遣した。

### 2.6.3 NMCC共同利用委員会

第17&18回NMCC共同利用研究成果発表会

会 期 平成24年 5月11日～12日

会 場 岩手医科大学医学部

特 別 講 演 「福島第一原子力発電所事故からの放射性物質の広域汚染とその影響」  
石井慶造（東北大学院工学研究科）

発 表 演 題 41件（PET：7件、PIXE：27件、薬剤・基礎：2件）

参 加 者 93名

報 文 集 NMCC共同利用研究成果報文集18（2011） CD-ROM版 平成25年3月発行

### 3. 第49回アイソトープ・放射線研究発表会

会 期 平成24年 7月 9日～11日

会 場 東京大学 弥生講堂

主 催 日本アイソトープ協会

共 催 学 協 会 59学・協会

特 別 講 演

- ・「放射性物質の大気拡散シミュレーションの現状と役割」
- ・「福島原発事故により放出された放射性物質の環境動態に関する学際研究」
- ・「放射線と甲状腺」
- ・「地球温暖化と地殻変動；バイオエタノール生産をめざした高収量性作物の開発」

パ ネ ル 討 論

- ・「福島原発事故から復興に向けた研究と今後の取り組み」
- ・「原子力災害を踏まえた放射線教育及びコミュニケーション」

研究発表件数 157件（口頭発表：128件、ポスター発表：29件）

要 旨 集 第49回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集

参加登録者数 657名

（第49回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会）

#### 4. 講習会

##### 4.1 文部科学省・厚生労働省登録講習

###### 4.1.1 第1種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第339回	平成24年 4月 9日 ～ 4月13日	32名	32名
第340回	平成24年 4月23日 ～ 4月27日	31名	31名
第341回	平成24年 6月11日 ～ 6月15日	32名	32名
第342回	平成24年 7月 2日 ～ 7月 6日	32名	32名
第343回	平成24年 7月23日 ～ 7月27日	31名	31名
第344回	平成24年 9月24日 ～ 9月28日	32名	32名
第345回	平成24年10月22日 ～ 10月26日	32名	32名
第346回	平成24年11月12日 ～ 11月16日	32名	32名
第347回	平成24年11月26日 ～ 11月30日	32名	32名
第348回	平成24年12月10日 ～ 12月14日	32名	32名
第349回	平成25年 1月21日 ～ 1月25日	32名	32名
第350回	平成25年 2月 4日 ～ 2月 8日	32名	32名
第351回	平成25年 2月18日 ～ 2月22日	32名	32名
第352回	平成25年 3月 4日 ～ 3月 8日	32名	32名

備考：目 的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第2項に定める講習

対 象 第1種放射線取扱主任者試験合格者で18歳以上の者

講習内容 (1) 放射線の基本的な安全管理に関する課目  
(2) 放射性同位元素及び放射線発生装置並びに放射性汚染物の取扱いの実務に関する課目  
(3) 使用施設等及び廃棄物詰替施設等の安全管理の実務に関する課目  
(4) 放射線の量及び放射性同位元素による汚染の状況の測定の実務に関する課目  
(5) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

###### 4.1.2 第3種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第14回	平成24年 5月24日 ～ 5月25日	32名	32名
第15回	平成24年10月11日 ～ 10月12日	15名	15名

備考：目 的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第4項に定める講習

対 象 18歳以上の者

講習内容 (1) 法に関する課目  
(2) 放射線及び放射性同位元素の概論  
(3) 放射線の人体に与える影響に関する課目  
(4) 放射線の基本的な安全管理に関する課目  
(5) 放射線の量の測定及びその実務に関する課目  
(6) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室



#### 4.1.3 放射線取扱主任者定期講習

回	開催地	開催日	受講者数	修了者数
使1201回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成24年 5月18日	33名	33名
販1201回			4名	4名
使1202回	飯田橋レインボービル (東京都新宿区)	平成24年 8月27日	65名	65名
販1202回			3名	3名
使1203回	大阪大学ラジオアイソトープ 総合センター (大阪府吹田市)	平成24年 9月21日	31名	31名
販1203回			1名	1名
使1204回	北海道大学アイソトープ総合 センター (北海道札幌市)	平成24年10月 5日	24名	24名
販1204回			0名	0名
使1205回	国際ファッションセンター ビル (東京都墨田区)	平成24年11月 5日	44名	44名
販1205回			1名	1名
使1206回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成24年11月19日	30名	30名
販1206回			1名	1名
使1207回	つくば国際会議場 (茨城県つくば市)	平成24年12月 7日	20名	20名
販1207回			1名	1名
使1208回	国際ファッションセンター ビル (東京都墨田区)	平成24年12月17日	30名	30名
販1208回			0名	0名
使1209回	ピュアリティまきび (岡山県岡山市)	平成24年12月21日	27名	27名
販1209回			0名	0名
使1210回	仙台市情報・産業プラザ (宮城県仙台市)	平成25年 1月18日	21名	21名
販1210回			1名	1名
使1211回	福岡リーセントホテル (福岡県福岡市)	平成25年 1月28日	31名	31名
販1211回			1名	1名
使1212回	大阪大学中之島センター (大阪府大阪市)	平成25年 2月15日	33名	33名
販1212回			0名	0名
使1213回	東桜会館 (愛知県名古屋市)	平成25年 3月 1日	39名	39名
販1213回			0名	0名
使1214回	日本アイソトープ協会 (東京都文京区)	平成25年 3月15日	32名	32名
販1214回			1名	1名

- 備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第36条の2に定める講習
- 対象 (1) 下記事業所等の選任された放射線取扱主任者
- ・許可届出使用者
  - ・届出販売業者、届出賃貸業者（表示付認証機器のみを販売又は賃貸する者及び放射性同位元素等の運搬及び運搬の委託を行わない者を除く）
- (2) 選任された放射線取扱主任者以外の者で本講習の受講を希望する者
- 講習内容 (1) 法に関する課目
- (2) 放射性同位元素等の事故の事例に関する課目
- (3) 放射性同位元素等の取扱いに関する課目
- (4) 使用施設等の安全管理に関する課目
- 上記の内、講習種別によって必要な課目を受講
- 会場 東京、大阪及び全国の各都市

4.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習 (厚生労働省登録)

回	会 期	受講者数	修了者数
第99回	平成24年 6月21日～ 6月22日	38名	37名
第100回	平成24年 9月13日～ 9月14日	34名	34名
第101回	平成24年11月 1日～11月 2日	36名	36名
第102回	平成25年 1月10日～ 1月11日	36名	36名

備考：目的 「作業環境測定士法」第5条に定める講習  
 対象 第一種作業環境測定士試験合格者又は作業環境測定士法第14条第3項により試験の全科目免除者  
 講習内容 (1) 放射性物質取扱作業室の作業環境について行う分析の実務  
 会場 協会会議室及び実習室

4.2 その他講習会

4.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会

回	会 期	受講者数	修了者数
第81回	平成24年 5月14日～ 5月17日	18名	18名

備考：目的 非密封アイソトープの安全取扱いにおいて必要な基礎入門的な知識及び実習を通じて安全取扱いの基本の習得  
 対象 特に新人教育向け  
 講習内容 講義：アイソトープの物理、化学、放射線管理測定技術、放射線障害防止法など  
 実習：測定実習、化学実習  
 会場 協会会議室及び実習室

4.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第41回	平成24年 6月 4日～ 6月 8日	39名

備考：目的 非密封ラジオアイソトープを安全に取扱うために必要な知識の習得  
 対象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法  
 会場 協会会議室

4.2.3 密封線源安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第54回	平成24年 5月28日～ 5月31日	33名

備考：目的 密封線源を安全に取扱うために必要な知識の習得。  
 対象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法  
 会場 協会会議室

#### 4.2.4 第1種主任者育成講習会

回	会 期	受講者数
第18回	平成24年 8月 1日～ 8月 3日	42名

備考： 目 的 第1種放射線取扱主任者として要求されている知識の整理とまとめ  
 対 象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、  
 技術者  
 講習内容 物理学、化学、生物学、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害  
 防止法  
 会 場 協会会議室

#### 4.2.5 第2種主任者育成講習会

回	会 期	受講者数
第18回	平成24年 7月30日～ 7月31日	14名

備考： 目 的 第2種放射線取扱主任者として要求されている知識の整理とまとめ  
 対 象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者  
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害  
 防止法  
 会 場 協会会議室

#### 4.2.6 $\gamma$ 線核種分析のための講習会

回	会 期	受講者数
第5回	平成24年4月16日	38名
第6回	平成24年5月21日	31名
第7回	平成24年12月19日	31名

備考： 目 的 ガンマ線核種の分析するために必要な放射線の基礎、測定器の原理などの  
 知識の習得及び解析上の注意点の説明  
 対 象  $\gamma$ 線検出器を使用して核種分析をしようとする自治体、企業など  
 講習内容 放射線の基礎、検出器の原理、機器の校正、演習、機器の保守  
 会 場 協会会議室

5. 図書等の発行

5.1 機関誌

5.1.1 Isotope News (広報誌) (No. 696 ~707) (Isotope News 編集委員会)

5.1.2 RADIOISOTOPES (学術誌) (Vol. 61 No. 4~Vol. 62 No. 3) (RADIOISOTOPES 編集委員会)

総説一覧

表 題
福島第一原子力発電所事故について 直接沈着及び経根吸収による放射性核種の植物への移行 オクロ天然原子炉についての基礎知識と最近の同位体研究の進歩 温暖化が及ぼす極付近の氷の危機 気体のW値測定の現状と問題点 ニュートリノ 炭素・窒素の安定同位体比による環境解析—生物間相互作用から流域の物質代謝まで— 高レベル放射性廃棄物の核変換技術の現状と展望 “国産化 <sup>99</sup> Mo/ <sup>99m</sup> Tcの医療運用に向けての課題” —研究用原子炉を用いる <sup>99</sup> Mo/ <sup>99m</sup> Tc国産化の課題— —医療用 <sup>99</sup> Mo原料の国産化に向けての現状と課題— —試験研究炉を用いた <sup>99</sup> Moの国産化— —医療用サイクロトロンによる <sup>99</sup> Mo及び <sup>99m</sup> Tcの製造と供給— —国産化 <sup>99</sup> Mo/ <sup>99m</sup> Tcの製造上の課題— —国産化 <sup>99</sup> Moを用いた放射性医薬品製造における課題— —加速器中性子利用 <sup>99</sup> Mo/ <sup>99m</sup> Tcによる <sup>99</sup> Mo国産化開発研究—

連載講座

表 題
“放射線治療” ホウ素中性子捕捉療法 “パルス中性子源を用いた新しいイメージング” パルス中性子の特徴とイメージングの原理 J-PARC中性子源 ブラッグエッジ透過分光法による結晶組織構造情報のイメージング “メスバウアースペクトロメトリーの基礎と応用” メスバウアースペクトロメトリーの基礎と応用—現状と展開(序説)— 高圧下のメスバウアースペクトル—新奇な圧力誘起スピン転移— 核共鳴非弾性散乱を用いたカゴ状物質におけるゲスト原子の振動状態の解析

## 5.2 出版物等

① 第53回 第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例	B5判	33ページ	504円
② 第56回 第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例	B5判	76ページ	735円
③ 第2種放射線取扱主任者試験 分野別問題集	B5判	213ページ	2,625円
④ 2012年版アイソトープ法令集 I -放射線障害防止法関係法令	B5判	513ページ	3,570円
⑤ 放射線障害の防止に関する法令 概説と要点 (改訂9版)	A5判	177ページ	2,100円
⑥ 放射線取扱の基礎 -第1種放射線取扱主任者試験の要点 (7版)	B5判	504ページ	4,200円
⑦ はじめての放射線測定 -正しく理解し, 正しく測ろう放射線-	B5判	143ページ	1,680円
⑧ ICRP Publ. 105 医学における放射線防護	B5判	46ページ	3,150円
⑨ ICRP Publ. 104 放射線防護の管理方策の適用範囲	B5判	100ページ <sup>*1</sup>	4,515円
		<sup>*1</sup> 本文相当ページ (総括+用語解説+本文)	
⑩ ICRP Publ. 109 緊急時被ばく状況における人々の防護のための委員会勧告の適用	B5判	66ページ <sup>*2</sup>	4,305円
		<sup>*2</sup> 本文相当ページ (総括+本文)	

## 5.3 東日本大震災対応

### ① ICRP勧告日本語版の提供

- ・ ICRP Publ. 111 完成版PDF特別無償公開 (5月2日から画面閲覧公開中)
- ・ ICRP Publ. 109 ドラフト版PDF特別無償公開 (3月末日まで公開)

## 6. 共同利用

### 6.1 仁科記念サイクロトロンセンター共同利用

		研究課題 (件)	割当回数 (回)	利用実績 (回)	備考
前 期	PET	5	49	59	検査数 94名
	PIXE	23	134	131	
	薬剤合成	1	15	2	
	合計	29	198	192	
後 期	PET	6	44	65	検査数 91名
	PIXE	24	134	124	
	薬剤合成	1	14	1	
	合計	31	192	190	
年度合計		60	390	382	

## 7. 普及・啓発

### 7.1 第16回（2012年）RADIOISOTOPES誌論文奨励賞

受賞者 6名

### 7.2 第49回アイソトープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞

受賞者 7名

### 7.3 第22回滝沢研究所施設公開

日 時 9月9日（日） 9:00～15:00

イベント 施設見学会（茅記念滝沢研究所・仁科記念サイクロトロンセンター・武見記念館）

講演会（公社）日本アイソトープ協会常務理事 山下 孝

「がんを切らずに治す放射線治療」

施設見学会、無料健康相談、無料骨密度測定、毛髪分析、霧箱実演など

来場者 約600名

### 7.4 武見記念館

展示内容 現代医学展示

身のまわりのアイソトープ・放射線展示

人工臓器ロボット

武見太郎先生日本医師会会長在職中備品

特別展示 参加型体験展示物「サイエンスブック」

開館時間 10:00～16:00

（土・日・祝祭日、創立記念日（5月1日）、年末年始（12月29日～1月4日）を除く）

来館者数 418名

### 7.5 第53回「科学技術週間」施設公開

日 時 4月16日（月）～ 4月20日（金）

茅記念滝沢研究所（医療RI廃棄物処理施設）

仁科記念サイクロトロンセンター（サイクロトロン、PET、PIXEなどの施設）

武見記念館（現代医学およびRI利用に関する展示）

### 7.6 公開講座

一般市民向けの公開講座

『市民のための公開講座・しゃべり場「低線量被ばくのリスクをどう思いますか？」』

開催日 7月11日（水） 15:30～18:30

主催 食のコミュニケーション円卓会議

共催 日本食品照射研究協議会、（公社）日本アイソトープ協会

会場 東京大学弥生講堂（第49回アイソトープ・放射線研究発表会と同時開催）

## 8. 図書室の活動\*

\* 図書室は平成25年1月31日をもって閉鎖しました。

### 8.1 新規収蔵図書

図 書 名	出 版 元
GCOE 東京大学グローバルCOEの今がわかる	日経BP企画
スリーマイルアイランド 一手に汗握る迫真の人間ドラマ	(株)ERC出版
詳解テキスト 医療放射線法令	名古屋大学出版会
世界で一番美しい元素図鑑	(株)創元社
放射線実験学	岡山大学出版会
科学技術Xの謎 ー天文・医療・文化財、あらゆるものの姿をあらわすX線にせまる	(株)化学同人
図説 放射線学入門 基礎から学ぶ緊急被曝ガイド	(株)医療科学社
診療画像検査法 実践 核医学検査	(株)医療科学社
核医学画像処理	山代印刷(株)
医用画像位置合わせの基礎	(株)医療科学社
読影力UP 骨・関節を“診る”サブノート	(株)医療科学社
画像再構成シリーズ 拡散MRIの基礎と応用	(株)医療科学社
薬学テキストシリーズ 放射化学・放射性医薬品学	(株)朝倉書店
超実践マニュアル 救急撮影	(株)医療科学社
仁科記念講演録集 1 現代物理学の創造	シュプリンガー・ジャパン(株)
身近な放射線の知識	丸善(株)
みんなのくらしと放射線	大阪公立大学共同出版会
放射線とのつきあい 老科学者からのメッセージ	(株)かまくら春秋社
クラウド時代と<クール革命>	(株)角川書店
化学分析・試験に役立つ 標準物質活用ガイド	丸善(株)
診療放射線技師のための Step UP Q&A	(株)医療科学社

図 書 名	出 版 元
ICRP Publication 105 医学における放射線防護	(公社)日本アイソトープ協会
NCRP REPORT No.165 Responding to a Radiological or Nuclear Terrorism Incident: A Guide for Decision Makers	The National Council on Radiation Protection and Measurements (NCRP)
NCRP REPORT No.166 Population Monitoring and Radionuclide Decorporation Following a Radiological or Nuclear Incident	The National Council on Radiation Protection and Measurements (NCRP)
NCRP REPORT No.167 Potentail Impact of Individual Genetic Susceptibility and Previous Radiation Exposure on Radiation Risk for Astronauts	The National Council on Radiation Protection and Measurements (NCRP)
NCRP REPORT No.168 Radiation Dose Management for Fluoroscopically- Guided Interventional Medical Procedures	The National Council on Radiation Protection and Measurements (NCRP)
ICRP Publication 103 国際放射線防護委員会の2007 年勧告 (中国語版)	原子能出版社
2012年版 アイソトープ法令集 I 放射線障害防止法 関係法令	(公社)日本アイソトープ協会
Annals of the ICRP ICRP Publication 116 Conversion Coefficients for Radiological Protection Qantities for External Radiation Exposures	ELSEVIER LTD.
Annals of the ICRP ICRP Publication 117 Radiological Protection in Fluoroscopically Guided Procedures Performed Outside the Imaging Department	ELSEVIER LTD.
Annals of the ICRP ICRP Publication 118 PART 1:ICRP Statement on Tissue Reactions, and PART 2:Early and Late Effects of Radiation in Normal Tissues and Organs-Threshold Doses for Tissue Reactions in a Radiation Protection	ELSEVIER LTD.
放射線障害の防止に関する法令 概説と要点 (改訂9 版)	(公社)日本アイソトープ協会
医療領域の放射線管理マニュアル *2012* -Q&A・医療関係法令-	医療放射線防護連絡協議会
はじめての放射線測定 -正しく理解し, 正しく測ろ う放射線-	(公社)日本アイソトープ協会
7版 放射線取扱の基礎 【第1種放射線取扱主任者試 験の要点】	(公社)日本アイソトープ協会
IAEA 安全基準シリーズ No.NS-G-1.4 原子力発電所の燃料取扱及び貯蔵系の設計 安全指針	(独)原子力安全基盤機構
IAEA 安全基準シリーズ No.NS-G-1.9 原子力発電所の原子炉冷却材系及び付帯系の設計 安全指針	(独)原子力安全基盤機構



図 書 名	出 版 元
IAEA 安全基準シリーズ No. SSG-12 原子炉等施設に対する許認可プロセス 個別安全指針	(独)原子力安全基盤機構
IAEA 安全基準シリーズ No. GS-G-1.1 原子力施設に対する規制機関の組織及び職員 安全指針	(独)原子力安全基盤機構
Annals of the ICRP ICRP Publication 120 Radiological Protection in Cardiology	ELSEVIER LTD.

(受入れ順)

## 8.2 収蔵定期刊行物

図 書 名	出 版 元
JAPANESE JOURNAL OF RADIOLOGY	(公社)日本医学放射線学会
HEALTH PHYSICS	HEALTH PHYSICS SOCIETY
科学新聞	(株)科学新聞社
環境と健康	(公財)体質研究会
APPLIED RADIATION AND ISOTOPES	ELSEVIER LTD.
JOURNAL OF LABELLED COMPOUNDS AND RADIOPHARMACEUTICALS	JOHN WILEY & SONS, LTD.
THE JOURNAL OF NUCLEAR MEDICINE	THE SOCIETY OF NUCLEAR MEDICINE, INC.
RADIATION PROTECTION DOSIMETRY	OXFORD UNIVERSITY PRESS
RADIATION RESEARCH	THE RADIATION RESEARCH SOCIETY

資 料 部会活動の経過及び成果公表資料

1. 理工学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
RI装備機器調査専門委員会 〔昭和39年 4月～12月〕	○ 利用状況および問題点のアンケート調査 * 「放射性同位元素装備機器利用状況調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 3(1965)
ラジオグラフィ専門委員会 〔昭和39年 4月～43年 3月〕	○ $\gamma$ 線ラジオグラフィ利用状況アンケート調査 * 「わが国における $\gamma$ 線ラジオグラフィの利用状況」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965) ○ 感光材料の問題点検討 * 「ラジオグラフィにおける圧力効果による“フィルムむら”について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965) ○ ガンマ線ラジオグラフィ検査基準の確立および $^{192}\text{Ir}$ 線源国産化の検討 日本原子力研究所、ラジオグラフィ使用事業所（8社）、照射機メーカー（4社）と数回にわたって試用共同実験 * 以上の成果として、「ガンマ線ラジオグラフィ露出計算尺」作製（昭和41年10月。昭和48年実用新案登録）、「ガンマ線透過撮影法」（昭和43年3月刊行(1968)）
文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕	○ 「RI理工学利用文献集」（昭和48年以前は「RI工業利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、理工文献題目集および理工文献紹介を掲載。
中性子水分計および $\gamma$ 線密度計専門委員会 〔昭和40年 2月～44年 5月〕	○ 水分計、密度計の安定性に関する共同実験（14事業所が参加） * 「中性子水分計およびガンマ線密度計の安定性に関する共同実験結果」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 16, No. 2(1967) ○ 土の密度と含水量測定におけるRI法と在来法の比較共同実験 ○ 中性子水分計およびガンマ線密度測定法マニュアルの検討（未完結）
オートラジオグラフィ専門委員会 〔昭和42年10月～45年 5月〕	○ 金属オートラジオグラフィにおける感光材料の解像力に関する共同実験  * 「理工学におけるオートラジオグラフィの最近の研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 1(1970) * 「放射性銀試験体を用いたマイクロオートラジオグラフィの分解能に関する研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 11(1970)
線源専門委員会 〔昭和43年 5月～44年 3月〕	○ 各種密封線源について利用開発上の問題点、検査法等について検討

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
環境汚染物質の放射化分析に関する専門委員会 〔昭和46年 9月～49年11月〕	○ 技術上の問題点，利用促進のための当面および将来の体制整備等に関する検討 * 「環境汚染物質の放射化分析における諸問題」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975)
硫黄分析計専門委員会 〔昭和46年 9月～52年 9月〕	○ 硫黄分析計利用状況アンケート調査 石油中重金属の測定値に及ぼす影響に関する共同実験，硫黄分測定照合実験（参加20機関） * 「RI式硫黄分析計による重油試料測定上の問題点 1. 放射線透過式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 11(1975) * 「（同上）2. 放射線励起式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975) * 「（同上）3. 照合試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 2(1976) * 「JIS K2285-1978 石油製品放射線透過式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定） * 「JIS K2286-1978 石油製品放射線励起式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定）
流れの測定に関する専門委員会 〔昭和46年10月～49年 3月〕	○ 野外および各種工程における気体、液体、粉体の流れ・拡散の測定へのRI利用測定技術について検討 * 「表面水流れ測定へのアイソトープの利用」、 「化学反応装置内の流れの測定」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 3(1976)
環境物質放射化分析専門委員会 〔昭和50年 1月～51年 1月〕	○ 利用状況アンケート調査 * 「放射化分析利用の手引き 環境調査と放射化分析」（昭和51年5月）を自治体公害調査部門等へ配布 * 「環境物質の調査における放射化分析の利用状況」 Isotope News誌、昭和50年12月号(1975)
環境物質放射化分析マニュアル作成検討専門委員会 〔昭和51年 7月～52年 9月〕	○ 上記2専門委員会の活動成果に基づき、環境試料の放射化分析技術に関する手引書の作成について予備的検討 * 「放射化分析による環境調査－微量・多元素・同時分析の手法」（昭和54年3月刊行(1979)）
放射能標準体使用マニュアル作成専門委員会 〔昭和52年 2月～56年 7月〕	○ 各種の放射能標準体・標準線源の適正な使用に資する解説書の作成 * 「放射能標準体・標準線源とその使用法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 28, No. 3～12(1979)、 Vol. 29, No. 1(1980) 昭和56年5月単行書刊行(1981)
利用機器専門委員会 〔昭和53年 6月～57年 5月〕	○ 放射性同位元素装備機器管理基準に関する調査（科学技術庁委託） * 「JIS Z4821 1981 密封放射線源」原案を作成（昭和56年3月制定） * 「RI装備機器・設計承認制度について」 Isotope News誌、昭和56年5月号(1981)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
RI野外トレーサ利用専門委員会設立検討会 〔昭和58年 3月～ 9月〕  放射線防護機器専門委員会 〔昭和58年 6月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ RI野外トレーサ実験実施上の問題点を抽出し、野外トレーサ利用促進のための専門委員会作業の要否を明らかにし、専門委員会設置の要を報告</li> <li>○ 放射線防護機器に関する資料を収集・検討し、隔年毎に「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集・発行。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「1982年版」 (昭和57年発行)</li> <li>* 「1984年版」 (昭和59年発行)</li> <li>* 「1986/87年版」 (昭和61年発行)</li> <li>* 「1988/89年版」 (昭和63年発行)</li> <li>* 「1990/91年版」 (平成2年発行)</li> <li>* 「1992/93年版」 (平成4年発行)</li> <li>* 「1994/95年版」 (平成6年発行)</li> <li>* 「1996/97年版」 (平成8年発行)</li> <li>* 「1998/99年版」 (平成10年発行)</li> <li>* 「2000/01年版」 (平成12年発行)</li> <li>* 「2002/03年版」 (平成14年発行)</li> <li>* 「2004/05年版」 (平成16年発行)</li> <li>* 「2006/07年版」 (平成18年発行)</li> <li>* 「2008/09年版」 (平成20年発行)</li> <li>* 「2010/11年版」 (平成22年発行)</li> <li>* 「2012/13年版」 (平成24年発行)</li> </ul> </li> </ul>
RI野外トレーサ実験調査委員会 〔昭和59年 4月～平成 2年 6月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ RI野外利用の実施を探るため、理工学、農学・生物学の分野で実験の実現が望まれている代表的なモデルについて検討を行うとともに科学技術庁と懇談、折衝。技術基準・安全基準の検討、アンケート調査の実施、講演会の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「RI野外トレーサ利用アンケート集計結果報告」 Isotope News誌、昭和62年5月号“あいそとぴっく”(1987)</li> <li>* 「放射性トレーサの野外・現場利用の歴史と現状」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 4～6(1988)</li> <li>* 「放射性トレーサの野外・現場利用推進上の問題点」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 6(1990)</li> </ul> </li> </ul>
密封放射線源JIS改訂専門委員会 〔昭和60年 4月～12月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「JIS Z4821密封放射線源」 (昭和56年3月制定) の見直し</li> </ul>
原子力用語JIS改訂専門委員会 〔昭和61年 8月～平成 4年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本工業規格「JIS Z4001原子力用語」の改訂に当たり、「放射線・アイソトープ利用・防護」部門の用語について調査検討。</li> </ul>
理工分野における放射性廃棄物検討専門委員会 〔平成 3年 9月～ 6年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「研究分野における放射性廃棄物の取扱い」 (平成6年5月刊行(1994))</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
微弱アイソトープ利用技術専門委員会 〔平成 4年 6月～10年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 微弱アイソトープ利用の促進と安全性の確保について調査・検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「IAEA安全シリーズ No. 102、工業、医学、研究、教育分野におけるアイソトープの安全使用と規則に関する勧告の抄訳」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 3(1995)</li> <li>* 「微弱アイソトープの安全利用に関する調査研究報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 2～4(1999)</li> </ul> </li> </ul>
放射性同位体等の産業利用専門委員会 〔平成 7年 8月～12年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産業分野におけるRI利用技術の調査、許認可申請の標準化について検討を行った。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「RI・放射線の産業利用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 46, No. 5～10(1997)</li> <li>* 「放射性同位体等の産業利用専門委員会報告書」 (平成12年5月)</li> </ul> </li> </ul>
放射線教育専門委員会 〔平成7年 8月～16年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放射線教育入門テキスト〔ライフサイエンス分野編〕を編集し、テスト版として発行。(平成10年3月) 放射線教育入門テキスト〔医学・臨床分野編〕を(平成11年1月)編集し、テスト版として発行。</li> </ul>
量子ビーム専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①新しい量子ビームの発生と利用、②半導体プロセスや医療への放射線利用、③量子ビーム利用に関する法規制の最適化等について検討を行うとともに、外部利用を受け付けるビーム利用施設の調査を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「日本における研究用加速器施設の現状アンケートに関する中間報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 7(2003)</li> <li>* 「日本における研究用加速器施設の現状(2005)調査報告と量子ビーム利用の広がり」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 12(2005)</li> </ul> </li> </ul>
放射線イメージング専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放射線イメージングの技術・学問内容について調査し、他のイメージング技術も参照しつつ、放射線イメージング技術の新しい方向について検討。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射線イメージング技術の最前線」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 10～Vol. 53, No. 6(2003～2004)</li> </ul> </li> </ul>
超低レベル放射能測定専門委員会 〔平成16年 9月～平成24年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通常の放射線計測技術では測定が困難あるいは検出が不可能な極微弱放射能の測定の重要性が増している現状を認識し、超低レベル放射能測定技術の発展と展望を探るために調査・検討を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「超低レベル放射能測定の現状と展望」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 4～No. 11(2006)合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。</li> <li>* 「液体シンチレーションカウンタによる測定の現 RADIOISOTOPES誌、Vol. 61, No. 2(2012)に掲載 (4</li> </ul> </li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>中性子イメージング専門委員会 〔平成17年 9月～平成22年5月〕</p> <p>RI・放射線 一般向け教育実験ノート ワーキンググループ</p> <p>中性子応用専門委員会 〔平成22年 6月～現在〕</p>	<p>○ 中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行う。</p> <p>* 「中性子イメージング技術の基礎と応用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 4～Vol. 57, No. 5(2007～2008) 合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。</p> <p>○ RI・放射線関係者以外の人達にRI・放射線、ひいては自然現象に対する理解を深めて貰うことに寄与するため、RI・放射線等に関する教育的実験についての情報を集め、取り纏めてIsotope News誌に掲載。このような実験を多くの場で取り入れてもらう一助とする。</p> <p>* 「RI・放射線 一般向け教育実験ノート」 Isotope News誌、平成18年4月号～平成19年5月号、平成20年3月号～5月号、7月号～12月号(2006～2008) 合本冊子を作成。協会ホームページに掲載。</p> <p>○ 発展の著しい中性子関連の幾つかの先端技術の研究について、従来の中性子イメージングに加え、新たに幾つかのテーマを加え研究調査を行う。</p> <p>* 「パルス中性子を用いた分光的イメージング」 Isotope News誌、平成22年6月号 “展望” (2010) 「農林水産加工分野にひらける中性子イメージング」 Isotope News誌、平成23年2月号 “展望” (2011) 「中性子の産業利用 (トライアルユース) : 中性子」 Isotope News誌、平成23年2月号 “利用技術”</p>

2. ライフサイエンス部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕	○ 「RI農学・生物学利用文献集」（昭和55年2月までは「RI農学・生物学利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、農学・生物学文献題目集および農学・生物学文献トピックスを掲載。
ラジオガスクロマトグラフィ専門委員会 〔昭和43年 3月～50年 9月〕	○ 農学・生物学分野におけるラジオガスクロマトグラフィに関する技術の利用開発、普及について調査、検討。
<sup>15</sup> N専門委員会 〔昭和48年 9月～51年 2月〕	○ 内外の関係文献の調査と勉強会などを開催し、利用の知識・方法の普及を検討。 安定同位元素専門委員会へ発展的に改組。
安定同位元素専門委員会 〔昭和51年 3月～現在〕	○ 安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。 * 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 6～Vol. 57, No. 3、Vol. 57, No. 9(2007～2008) 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 59, No. 7、Vol. 59, No. 11(2010) 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 61, No. 3(2012) 総説「安定同位体利用技術」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 62, No. 2(2013)
微量RIの管理に関する専門委員会 〔昭和48年 9月～57年 5月〕	○ 生化学分野における微量RIの使用施設の在り方、排水処理の方法、貯蔵・保管の方法、固体廃棄物・有機廃液の処理等の可能性について検討。
遺伝子工学専門委員会 〔昭和61年10月～平成 4年 5月〕	○ 生物学関連の遺伝子工学分野におけるRI利用状況を調査 * 「遺伝子工学実験講座」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 10～Vol. 38, No. 2, 4(1987～1989) 合本し、「遺伝子工学実験 Strategy & Practice」として平成3年5月出版(1991)。
アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～平成22年5月〕	○ RIをトレーサとして用いる研究用機器について、その原理、性能、特徴および適切な用途等の最新情報を収集し、公表した。 * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 10～No. 12、Vol. 43, No. 1(1993～1994) * 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第二シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8～No. 12、Vol. 45, No. 1～No. 2(1995～1996)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～平成22年5月〕</p>	<p>* 「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第三シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 11～No. 12、 Vol. 48, No. 1～No. 5、No. 7～No. 9、No. 11～No. 12 Vol. 49, No. 1～No. 2、No. 10～No. 12、 Vol. 50, No. 1～No. 2(1998～2001) 第一、第二シリーズの合本冊子を作成。 第三シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成14年2月)</p> <p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第四シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 3～No. 6、 Vol. 53, No. 3、Vol. 54, No. 1～No. 2、No. 7～ No. 8(2003～2005) 第四シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成17年9月)</p> <p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器（第五シリーズ）」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 7～No. 10、 Vol. 56, No. 3～No. 4、No. 9、Vol. 57, No. 2、 Vol. 58, No. 7 (2006～2009)</p>
<p>分子生物学分野のRI取扱専門委員会 (平成8年6月より、「ライフサイエンス分野 のRI取扱専門委員会」に名称変更) 〔平成 4年 6月～平成14年 5月〕</p>	<p>○ 分子生物学分野（ライフサイエンス分野）におけるRI取扱上の諸問題について安全で円滑な利用を図るための調査、検討を行った。</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告」 Isotope News誌、平成6年9月号“会員へのお知らせ”（1994）</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告 －「監督区域」設置の可能性を探るアンケートの結果－」 “会員へのお知らせ”（1995）</p> <p>* 「ライフサイエンスの話題」 Isotope News誌、平成15年2月号～5月号(2003)</p>
<p>薬学・薬理学研究専門委員会 〔平成 6年11月～現在〕</p>	<p>○ 薬学・薬理学研究分野におけるRI利用の問題点を調査した。</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告－薬学・薬理学研究分野のRI取扱いに関するアンケート結果－」 Isotope News誌、平成9年4月号“会員へのお知らせ”（1997）</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告－薬学・薬理学研究分野における放射線・放射能計測法に関するアンケート結果－」 Isotope News誌、平成11年11月号“会員へのお知らせ”（1999）</p> <p>* 「R I計測のためのQ &amp; A」 協会ホームページに掲載。（平成17年7月）(2005)</p> <p>* 「マイクロドーズ試験の現状と展望」 Isotope News誌、平成20年4月号“展望”（2008）</p>



専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
獣医核医学専門委員会 〔平成14年 6月～平成22年5月〕	○ 伴侶動物への核医学診療における諸問題の検討を行う。 * 「獣医核医学専門委員会 中間報告書」 (平成15年9月2日)(2003)
食品照射専門委員会 〔平成14年 6月～平成22年5月〕	○ 食品照射についての内外の情報を集め、調査・検討を行う。 * 「食品照射に関するQ&A」 協会ホームページに掲載。(平成20年11月)(2008)

3. 医学・薬学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>インビトロテスト専門委員会 〔昭和46年 9月～平成22年 5月〕</p>	<p>* 「RIインビトロ検査全国コントロールサーベイ」 (第1回～21回までRADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>* 「イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ」 (第22回より名称変更。RADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>第1回 (1978年実施)、Vol. 29, No. 11 (1980)            第2回 (1979年実施)、Vol. 30, No. 1 (1981)            第3回 (1980年実施)、Vol. 31, No. 7 (1982)            第4回 (1982年実施)、Vol. 32, No. 6 (1983)            第5回 (1983年実施)、Vol. 32, No. 7, 8 (1983)            第6回 (1984年実施)、Vol. 34, No. 9 (1985)            第7回 (1985年実施)、Vol. 35, No. 10 (1986)            第8回 (1986年実施)、Vol. 36, No. 10 (1987)            第9回 (1987年実施)、Vol. 37, No. 11 (1988)            第10回 (1988年実施)、Vol. 38, No. 10 (1989)            第11回 (1989年実施)、Vol. 39, No. 10 (1990)            第12回 (1990年実施)、Vol. 40, No. 10 (1991)            第13回 (1991年実施)、Vol. 41, No. 11 (1992)            第14回 (1992年実施)、Vol. 42, No. 11 (1993)            第15回 (1993年実施)、Vol. 43, No. 10 (1994)            第16回 (1994年実施)、Vol. 44, No. 11 (1995)            第17回 (1995年実施)、Vol. 45, No. 11 (1996)            第18回 (1996年実施)、Vol. 46, No. 11 (1997)            第19回 (1997年実施)、Vol. 47, No. 11 (1998)            第20回 (1998年実施)、Vol. 48, No. 11 (1999)            第21回 (1999年実施)、Vol. 49, No. 10 (2000)            第22回 (2000年実施)、Vol. 50, No. 10 (2001)            第23回 (2001年実施)、Vol. 51, No. 10 (2002)            第24回 (2002年実施)、Vol. 52, No. 10 (2003)            第25回 (2003年実施)、Vol. 53, No. 10 (2004)            第26回 (2004年実施)、Vol. 54, No. 10 (2005)            第27回 (2005年実施)、Vol. 55, No. 10 (2006)            第28回 (2006年実施)、Vol. 56, No. 10 (2007)            第29回 (2007年実施)、Vol. 57, No. 10 (2008)            第30回 (2008年実施)、Vol. 58, No. 10 (2009)</p> <p>* 「The Large “Kit-to-Kit” Variation in Insulin Radioimmunoassay is Mainly Due to Defference in Standard Concentration」 CHEMISTRY, Vol. 28, No. 12</p> <p>* 「An Inter- and Intra-laboratory Quality-Control Survey of Radioimmunoassay of Insulin, Thyroxin, Thyrotropin, Cortisol, Digoxin, Gastrin, <math>\beta</math>2-Microglobulin and IgE in Japan with Commercially Available Kits」 CHEMISTRY, Vol. 29, No. 8</p> <p>* 「RIインビトロ検査の現状と問題点」 Isotope News誌、1992年2～3月号</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射性医薬品安全性専門委員会 〔昭和50年10月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、16巻3号(1979)</li> <li>* 「第2回放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、18巻3号(1981)</li> <li>* 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 (第3報～33報まで『核医学』に掲載) 第3報(19巻7号(1982))、第4報(20巻4号(1983)) 第5報(21巻3号(1984))、第6報(22巻4号(1985)) 第7報(23巻4号(1986))、第8報(24巻4号(1987)) 第9報(25巻4号(1988))、第10報(26巻4号(1989)) 第11報(28巻3号(1991))、第12報(28巻4号(1991)) 第13報(29巻3号(1992))、第14報(30巻5号(1993)) 第15報(31巻3号(1994))、第16報(32巻6号(1995)) 第17報(33巻6号(1996))、第18報(34巻4号(1997)) 第19報(35巻3号(1998))、第20報(36巻3号(1999)) 第21報(37巻3号(2000))、第22報(38巻2号(2001)) 第23報(39巻1号(2002))、第24報(40巻1号(2003)) 第25報(41巻1号(2004))、第26報(42巻1号(2005)) 第27報(43巻1号(2006))、第28報(44巻1号(2007)) 第29報(45巻1号(2008))、第30報(46巻1号(2009)) 第31報(47巻1号(2010))、第32報(48巻1号(2011)) 第33報(49巻1号(2012))、第34報(50巻1号(2013))</li> <li>* 「放射性医薬品の副作用事例報告について—調査報告書における症例数と製薬会社が収集した自発症例数との比較—」 核医学、43巻4号(2006)</li> </ul>
核医学イメージング規格化小委員会 〔昭和51年 1月～昭和52年12月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「アンガー型シンチレーションカメラの性能試験条件」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 26, No. 10(1977)</li> </ul>
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「核医学イメージングの規格化に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 28, No. 11(1979)</li> <li>* 「シンチカメラ性能の定期点検に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 30, No. 7(1981)</li> <li>* 「キュリーメータの試験方法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 4(1983)</li> <li>* 「Single Photon Emission Computed Tomography装置の性能試験条件」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 3(1984)</li> <li>* 「核医学イメージングの規格化に関する勧告(1984改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983)</li> <li>* 「SPECT像表示の規格化に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 8(1986)</li> <li>* 「核医学イメージングの規格化に関する勧告(1987年第2次改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 2～3(1988)</li> <li>* 「核医学イメージングのための小児への放射性医薬品投与量に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 11(1988)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「SPECT装置の回転軸ずれおよびイメージサイズ変動に関する日常試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 2(1990)</li> <li>* 「核医学イメージング装置の保守点検に関する実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 3(1992)</li> <li>* 「ガンマカメラによるデジタル画像の表示・記録に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 1(1994)</li> <li>* 「標準的な核医学イメージングプロトコール(1994年第3次改訂)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994)</li> <li>* 「日常臨床における心臓核医学検査の選択に関する試案」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 3(1996)</li> </ul>
核医学技術専門委員会 (平成6年6月～8年5月まで核医学技術小委員会として核医学イメージング規格化専門委員会に置かれる) 〔昭和59年 6月～平成 6年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「核医学検査室における機器および施設等の安全管理に関するアンケート調査結果」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 9(1987)</li> <li>* 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査報告 第2報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 11(1990)</li> <li>* 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第3報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 3(1994)</li> <li>* 「キュリーメータの測定精度実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8(1994)</li> </ul>
核医学イメージング・検査技術専門委員会 (平成8年より核医学イメージング規格化専門委員会と核医学技術小委員会が合併した) 〔平成 8年 6月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第4報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 12(1996)</li> <li>* 「核医学画像と形態画像 (CT/MRI) の重ね合わせの現状と普及に向けての提案」 Isotope News誌、1997年11月号</li> <li>* 「デジタルガンマカメラおよびSPECT装置の定期点検」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 5(1998)</li> <li>* 「核医学の安全管理等に関するアンケート調査報告 第5報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 8(1999)</li> <li>* 「全身イメージングにおける適正スキャン速度に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 7(2002)</li> <li>* 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第6報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 8(2002)</li> <li>* 「核医学紹介シリーズ」 (平成14年10月)</li> <li>* 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第7報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 7(2005)</li> <li>* 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第8報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 7(2008)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング・検査技術専門委員会 〔平成 8年 6月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第9報 RADIOISOTOPES誌、Vol. 60, No. 7, 8(2011)</li> <li>* PET装置の品質管理・品質保証に関するアンケート調査報告 RADIOISOTOPES誌、Vol. 61, No. 11(2012)</li> </ul>
医療放射線管理問題専門委員会 〔昭和53年 1月～57年 7月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「平均使用数量の導入による <math>^{11}\text{C}</math>、<math>^{13}\text{N}</math>、<math>^{15}\text{O}</math>、<math>^{18}\text{F}</math> の1日最大使用数量の求め方」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 31, No. 7(1982)</li> </ul>
核医学用語分類専門委員会 〔昭和53年 1月～59年11月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「医療行為の国際分類(ICPM)コード利用による全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983)</li> </ul>
サイクロトロン核医学利用専門委員会 (平成17年11月より、「ポジトロン核医学利用専門委員会」に名称変更) 〔昭和56年 9月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 院内サイクロトロンにより製造される放射性薬剤の臨床利用について Isotope News誌、1983年9月号</li> <li>* 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床使用に関する指針：Ⅰ 医療施設ないし医学研究施設内の加速器等で生産された超短寿命核種の臨床利用に関する指針、Ⅱ 院内サイクロトロン放射性薬剤に関する指針、Ⅲ 院内サイクロトロン放射性薬剤の臨床利用に関する指針、Ⅳ サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 34, No. 11(1985)</li> <li>* 「院内サイクロトロン放射性薬剤の前臨床段階における安全性の評価に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 11(1986)</li> <li>* 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床利用に関する指針(続報Ⅰ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 8(1988)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1990年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 40, No. 3(1991)</li> <li>* 「What is PET? “Q and A” —PETをよりよく理解するために—」</li> <li>* PET装置の性能評価のための測定指針(1992年4月)</li> <li>* PET装置の性能評価のための測定指針(1994年6月改訂) RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1994年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 6(1995)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>サイクロトロン核医学利用専門委員会 (平成17年11月より、「ポジトロン核医学利用 専門委員会」に名称変更) 〔昭和56年 9月～現在〕</p> <p>ポジトロン核医学利用専門委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 12(1999)</li> <li>* 「PET薬剤製造施設基準」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 49, No. 3(2000)</li> <li>* 「FDG-PET検査の臨床的有用性と医療経済効果に関する全国調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 49, No. 3(2000)</li> <li>* 「院内製造されたFDGを用いてPET検査を行うためのガイドライン」 核医学、38巻2号(2001)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001)</li> <li>* 「『サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)』に関する解説」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001)</li> <li>* 「『サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定)』に関する参考資料」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 5(2001)</li> <li>* 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定追補)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 50, No. 7(2001)</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、2003年11月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第2報」 Isotope News誌、2005年2月号</li> <li>* 「院内製造されたFDGを用いたPET検査を行うためのガイドライン 第2版」 核医学、42巻4号(2005)</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第3報」 Isotope News誌、2006年10月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第4報」 Isotope News誌、2008年1月号</li> <li>* 「保険診療に認められていない悪性腫瘍(癌、肉腫)の診断における<sup>[18F]</sup>FDG-PETの臨床的有用性—多施設アンケート調査による検討—」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 1(2008)</li> <li>* 「PET用放射性医薬品の合成、分注、品質管理に携わる作業者の被ばく線量調査報告」 Isotope News誌、2008年10月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第5報」 Isotope News誌、2008年12月号</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
ポジトロン核医学利用専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「PET核医学におけるサイクロトロン施設からの漏えい線量等に係る検討ワーキンググループ報告書」(2009)</li> <li>* 「ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2009年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009)</li> <li>* 「『ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2009年改定)』に関する解説」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009)</li> <li>* 「『ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2009年改定)』に関する参考資料」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009)</li> <li>* 「ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の臨床使用の指針(2009年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 58, No. 6(2009)</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第6報」 Isotope News誌、2009年6月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第7報」 Isotope News誌、2010年7月号</li> <li>* 「ポジトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準」の今後のあり方について―「研究」と「診療」の境界を結ぶ― RADIOISOTOPES誌、Vol. 59, No. 9(2010)</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第8報」 Isotope News誌、2011年11月号</li> <li>* 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第9報」 Isotope News誌、2012年5月号</li> </ul>
薬学専門委員会 (平成6年より「放射性医薬品専門委員会」に名称変更) [昭和44年 6月～平成 6年]	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射性医薬品の最近の話題」(RADIOISOTOPES誌講座合本) RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 1～7(1984)</li> <li>* 「放射性医薬品の安全取扱と管理」 JJSHP、Vol. 26, No. 12 (1990)</li> </ul>
放射性医薬品専門委員会 [平成 6年 6月～現在]	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「治療用放射性医薬品に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、1998年11月号</li> <li>* 「標識キット方式による<sup>99m</sup>Tc放射性医薬品の調製について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 53, No. 3(2004)</li> <li>* 「薬による放射性医薬品の体内挙動の変化について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 1(2007)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射線治療専門委員会 〔昭和57年 6月～平成 4年 5月、 平成12年 6月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「医療用密封小線源の管理 (RADIOISOTOPES誌講座合本)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 2～6(1987)</li> <li>* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(初版・第二版) (2003)</li> <li>* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(第三版) (2004)</li> <li>* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(第四版) (2005)</li> </ul>
放射線治療委員会 〔平成 4年 6月～12年5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニュアル」 (2008)</li> <li>* 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(第五版) (2011)</li> <li>* 「高線量率RALS安全取扱マニュアル」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 10(1999)</li> </ul>
医療放射線管理専門委員会 〔平成 8年 9月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 核医学診療施設における研究ボランティアの放射線被ばくの現状と今後の課題 —RIを投与する臨床研究または治験を受けるボランティアの被ばくに関するアンケート調査報告— RADIOISOTOPES誌、Vol. 59, No. 11(2010)</li> </ul>
核医学診療実態調査専門委員会 (平成8年より「全国核医学診療実態調査専門委員会」に名称変更)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第2回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 38, No. 4(1989)</li> <li>* 「第3回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 9～10(1993)</li> </ul>
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成 8年 6月～10年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第4回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 8(1998)</li> </ul>
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成13年 9月～16年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第5回全国核医学診療実態調査報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 8(2003)</li> <li>* Nuclear medicine practice in Japan: A report of the 5th nationwide survey in 2002 Annals of Nuclear Medicine Vol.18, No.1</li> </ul>
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成18年10月～20年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第6回全国核医学診療実態調査報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 57, No. 8(2008)</li> <li>* Nuclear medicine practice in Japan: a report of the sixth nationwide survey in 2007 Annals of Nuclear Medicine Vol. 23, No. 2</li> </ul>
アイソトープ内用療法専門委員会 〔平成18年 5月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム(Sr-89)治療の適正使用マニュアル」(初版) (2007)</li> <li>* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム(Sr-89)治療の適正使用マニュアル」(第二版・第三版) (2008)</li> <li>* 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法 of the 適正使用マニュアル」(初版) (2008)</li> </ul>



専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p data-bbox="129 226 722 705">アイソトープ内用療法専門委員会</p> <p data-bbox="129 705 722 907">標識抗体医学利用専門委員会 〔昭和63年 4月～平成 3年 5月〕</p> <p data-bbox="129 907 722 1019">放射性医薬品施設内管理専門委員会 〔平成 1年10月～ 4年 5月〕</p> <p data-bbox="129 1019 722 1220">免疫核医学専門委員会 〔平成 5年 7月～ 8年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="746 226 1437 324">* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89) 治療の適正使用マニュアル」 (第四版) (2009)</li> <li data-bbox="746 324 1437 425">* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89) 治療の適正使用マニュアル」 (第四版第二刷) (2011)</li> <li data-bbox="746 425 1437 504">* 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法 の適正使用マニュアル」(第二版) (2009)</li> <li data-bbox="746 504 1437 571">* 「イットリウム-90標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法 の適正使用マニュアル」(第二版第二刷) (2011)</li> <li data-bbox="746 571 1437 683">* 「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム (Sr-89) 治療の適正使用マニュアル」 (第五版) (2013)</li>   <li data-bbox="746 705 1437 884">* 「医学研究施設内で作られたRI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 12 (1990) 核医学、第28巻3号 (1991) 日本医放会誌、第51巻5号 (1991)</li>   <li data-bbox="746 907 1437 996">* 「放射性医薬品の施設内取扱に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 2 (1992)</li>   <li data-bbox="746 1019 1437 1131">* 「遺伝子組換え技術を応用して作られたRI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8 (1994)</li> <li data-bbox="746 1131 1437 1220">* 「RI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8 (1995)</li> </ul>

4. 放射線安全取扱部会 \*

\* 平成24年4月に、放射線取扱主任者部会より名称変更

4.1 組織改正以前（昭和34年12月～平成 4年 5月）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>東京常任委員会 〔昭和34年12月～平成 4年 5月〕</p>	<p>* Isotope News No. 68～382「主任者コーナー」の編集（1960.4～1992.5） * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第5～36回） Isotope News(1961～1992) * 「放射線施設の火災対策」（1961） * 「密封小線源の取扱」（1962） * 「個人外部被ばくモニタリングの手引き」（1964） * 「放射線管理実務マニュアルⅠ」（1983） * 「放射線施設の火災・地震対策」（1985） * 「外部被ばくモニタリング」（1986） * 「千葉県東方沖地震状況調査」 Isotope News 1988年8月号 * 「千葉県東方沖地震状況調査」 Radioisotopes 38, 2(1989) * 「改訂放射線管理実務マニュアルⅠ」（1989） * 「放射線障害防止教育訓練用OHPシート」（1991） * 「放射線管理実務マニュアルⅡ」（1991） * 「現行法令の課題」（1992）</p>
<p>関西常任委員会 〔昭和36年 7月～平成 4年 5月〕</p>	<p>* 「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第1～33回） Isotope News(1961～1992) * 「放射線とアイソトープ」（1962）</p>
<p>中部常任委員会 〔昭和55年 6月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>北海道地方委員 〔平成 2年 4月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>東北地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>九州地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>基盤整備委員会 〔平成 2年11月～平成 3年 3月〕</p>	<p>* 「平成3年度主任者研修会（第32回部会総会）要旨集（補冊）」（1991） 基盤整備委員会報告書</p>
<p>新体制移行委員会 〔平成 3年 9月～平成 4年 3月〕</p>	

4.2 組織改正以後（平成 4年 6月～現在）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>【本部組織】 本部運営委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・企画専門委員会 (平成24年4月～企画委員会より名称変更) 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・広報専門委員会 (平成24年4月～広報委員会より名称変更) 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・法令検討専門委員会 (平成24年4月～法令検討委員会より名称変更) 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「主任者部会設立50周年資料集」 平成24年9月 (2012)</li> <li>* 「東日本大震災放射線施設状況調査報告」 Isotope News, 2012, 7月号, P. 61</li> <li>* 「平成4年度主任者研修会（第33回部会総会）要旨集」（1992）</li> <li>* 「21世紀の主任者部会活動に向けて」（1996）</li> <li>* ニューメディア教育訓練用教材CD-ROM試作版（1999年8月）</li> <li>* Isotope News No. 383～707「主任者コーナー」の編集（1992.6～2013.3）</li> <li>* 「主任者ニュース」第1～18号編集(1995～2012)</li> <li>* 「改訂3版 放射線管理実務マニュアルI」平成5年9月（1993）</li> <li>* 法令検討委員会報告（案）（現行法令の課題）（平成11年10月）</li> <li>* 法令検討委員会報告（現行法令の課題）平成12年度主任者年次大会要旨集, 2000, P. 223</li> <li>* 法令改正への対応に際してのQ&amp;A（1） Isotope News, 2001, 6月号, P. 47</li> <li>* 法令改正への対応に際してのQ&amp;A（2） Isotope News, 2001, 7月号, P. 50</li> <li>* Q&amp;A：BSS免除レベルの取り入れで法令はどう変わるのか Isotope News, 2003, 11月号, P. 63</li> <li>* 法令検討委員会報告書「放射線取扱主任者のあり方」について Isotope News, 2004, 7月号, P. 79</li> <li>* 改正法令に関するQ&amp;A：放射線障害防止法及び関係政省令等の改正について Isotope News, 2005, 6月号, P. 45</li> <li>* 「事業主の責務と放射線取扱主任者のあり方について」 Isotope News, 2006, 4月号, P. 76</li> <li>* 「放射性同位元素使用施設等で発生する廃棄物のクリアランスについての現状」 Isotope News, 2006, 10月号, P. 11</li> <li>* クリアランスを巡る最近の動きについて ークリアランスの運用状況及びICRPの新勧告ー Isotope News, 2008, 5月号, P. 64</li> <li>* 放射線管理Q&amp;A Isotope News, 2009, 10月号, P. 63</li> <li>* 放射線管理Q&amp;A Isotope News, 2010, 11月号, P. 50</li> <li>* 放射線管理Q&amp;A Isotope News, 2012, 11月号, P. 57</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織化推進委員会 〔平成 8年 6月～平成14年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「選任放射線取扱主任者のアンケート調査」結果報告 Isotope News, 2000, 6月号, P. 53</li> <li>* 「組織化推進委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 7月号, P. 49</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任者部会－21世紀のあり方検討委員会 〔平成 8年11月～平成12年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「主任者部会・21世紀のあり方」中間報告書 平成11年度主任者年次大会要旨集, 1999, P. 135</li> <li>* 「主任者部会・21世紀のあり方」報告書 (平成11年11月)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線管理技術検討委員会 〔平成10年 4月～平成14年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「放射線施設の遮蔽能力・放射性物質飛散率評価に関する調査研究（中間報告）」(1998)</li> <li>* 「放射線管理技術検討委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 10月号, P. 63</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・製薬放射線委員会 〔平成10年 6月～平成12年 5月〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「ラジオアイソトープを用いた動物実験での文献調査—飛散率について—」 RADIOISOTOPES誌 Vol. 47, No. 11(1998)</li> </ul>
<p>【 支部組織 】</p> <p>北海道支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成19年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「北海道東方沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 79</li> <li>* 「平成11年度主任者年次大会（第40回主任者研修会）要旨集」(1999)</li> <li>* 「平成19年度主任者部会年次大会（第48回放射線管理研修会）要旨集」(2007)</li> </ul>
<p>東北支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 7年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成16年度主任者部会年次大会実行委員会</li> <li>・平成23年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「三陸はるか沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 74</li> <li>* 「平成 7年度主任者年次大会（第36回主任者研修会）要旨集」(1995)</li> <li>* 「平成16年度主任者部会年次大会（第45回放射線管理研修会）要旨集」(2004)</li> <li>* 「平成23年度主任者部会年次大会（第52回放射線管理研修会）要旨集」(2011)</li> </ul>
<p>関東支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会</li> <li>・平成 8年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成12年度主任者年次大会実行委員会</li> <li>・平成15年度主任者部会年次大会実行委員会</li> <li>・平成21年度主任者部会年次大会実行委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第 1 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第37～55回）Isotope News(1992～2011)</li> <li>* 「平成 8年度主任者年次大会（第37回主任者研修会）要旨集」(1996)</li> <li>* 「平成12年度主任者年次大会（第41回主任者研修会）要旨集」(2000)</li> <li>* 「平成15年度主任者部会年次大会（第44回放射線管理研修会）要旨集」(2003)</li> <li>* 「平成21年度主任者部会年次大会（第50回放射線管理研修会）要旨集」(2009)</li> </ul>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>中部支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 種放射線取扱主任者試験問題 解答例作成委員会</li> <li>・平成 5 年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・平成13年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・平成20年度主任者部会年次大会実行 委員会</li> </ul> <p>近畿支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 種放射線取扱主任者試験問題 解答例作成委員会</li> <li>・平成 6 年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・平成14年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・平成22年度主任者部会年次大会実行 委員会</li> </ul> <p>中国・四国支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 9 年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・平成17年度主任者部会年次大会実行 委員会</li> <li>・平成24年度放射線安全取扱部会年次大会 実行委員会</li> </ul> <p>九州支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成10年度主任者年次大会実行 委員会</li> <li>・平成18年度主任者部会年次大会実行 委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「第 2 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第35, 49, 51, 52回) Isotope News 1993, 2008, 2010, 2011年 1 月号</li> <li>* 「平成 5 年度主任者年次大会 (第34回主任者研修 会) 要旨集」(1993)</li> <li>* 「平成13年度主任者年次大会 (第42回主任者研修 会) 要旨集」(2001)</li> <li>* 「平成20年度主任者部会年次大会 (第49回放射線管 理研修会) 要旨集」(2008)</li> <li>* 「阪神・淡路大震災の被災施設状況調査および救援 活動報告」 Isotope News, 1995, 4～8月号</li> <li>* 「第 2 種放射線取扱主任者試験問題と解答例」 (第34, 36～52回) Isotope News(1992, 1994～2011)</li> <li>* 「平成 6 年度主任者年次大会 (第35回主任者研修 会) 要旨集」(1994)</li> <li>* 「平成14年度主任者年次大会 (第43回主任者研修 会) 要旨集」(2002)</li> <li>* 「平成22年度主任者部会年次大会 (第51回放射線管 理研修会) 要旨集」(2010)</li> <li>* 「平成 9 年度主任者年次大会 (第38回主任者研修 会) 要旨集」(1997)</li> <li>* 「平成17年度主任者部会年次大会 (第46回放射線管 理研修会) 要旨集」(2005)</li> <li>* 「平成24年度放射線安全取扱部会年次大会 (第53回 放射線管理研修会) 要旨集」(2012)</li> <li>* 「平成10年度主任者年次大会 (第39回主任者研修 会) 要旨集」(1998)</li> <li>* 「平成18年度主任者部会年次大会 (第47回放射線管 理研修会) 要旨集」(2006)</li> </ul>

## 事務局組織

### 学術振興部

学術・出版課 TEL (03)5395-8081、(03)5395-8082 FAX (03)5395-8053

- ・理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会、放射線安全取扱部会事務局
- ・アイソトープ・放射線研究発表会事務局
- ・RADIOISOTOPES誌の編集・刊行
- ・専門書、ICRP刊行物、ビデオシリーズの編集・刊行
- ・輸送標識の頒布
- ・図書室利用窓口（平成25年1月まで）

### 企画部

広報課 TEL (03)5395-8035 FAX (03)5395-5652

- ・Isotope News誌の編集・刊行
- ・一般向け図書の編集・刊行
- ・放射線を業として取り扱ったことのない人を対象とした講習会への講師派遣

### 技術部

研修課 TEL (03)5395-8083 FAX (03)5395-8053

- ・第1種放射線取扱主任者講習【文部科学省登録】
- ・第3種放射線取扱主任者講習【文部科学省登録】
- ・放射線取扱主任者定期講習【文部科学省登録】
- ・第一種作業環境測定士（放射性物質）講習【厚生労働省登録】
- ・アイソトープ基礎技術入門講習
- ・その他講習会の事務窓口

滝沢研究所 TEL (019)688-1811 FAX (019)688-1813

- ・サイクロトロンセンターの共同利用（仁科記念サイクロトロンセンター）  
（PIXE分析、PETの利用）
- ・RI利用、医学利用展示（武見記念館）

本資料の発行及び問い合わせ先  
(公社) 日本アイソトープ協会学術振興部  
〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45  
TEL (03)5395-8081 FAX (03)5395-8053